2024年6月14日

株式会社Wasshoi Lab

Press Release

令和6年度「地域の社会課題解決企業支援のためのエコシステム構築実証」採択

東北地方から新形態「ローカル・ゼブラ企業」に挑戦！

～「どんなライフステージでも女性が輝ける地域」をビジョンに、実証着手～

Wasshoi Tohoku Groupの株式会社Wasshoi Lab（本社：宮城県丸森町、代表取締役 齊藤 良太）は、中小企業庁の令和6年度「地域の社会課題解決企業支援のためのエコシステム構築実証（地域実証事業）」に採択されましたのでご報告いたします。令和6年4月9日から5月13日まで公募が行われ、112者応募のうち20件という狭き門を通過いたしました。弊社が予定している事業の概要をご案内申し上げます。

【事業概要】

地域ビジョン：どんなライフステージでも女性が輝ける地域―宮城―

解決したい課題：宮城県における出生率の低さ・それに関連する複雑な課題解決

改善する環境：女性の「働く環境」と「子育て環境」の改善

検証する内容：宮城県の都市部と地方部の比較検証・分析

検証方法：ローカル・ゼブラ企業２社の育成

① 株式会社Wasshoi Lab：女性×地域DXによる「良質な雇用創出」

② 株式会社キューテスト：保育・家事代行サービスによる「可処分時間の拡大」

連携先：地域牽引企業、住民、地方自治体、シンクタンク、ソーシャルインパクト専門家　他多数

【本事業を通じて実現したいこと】

本事業を通じて、当社は、ローカル・ゼブラ企業*となることを目指します。また、今後多くのローカル・ゼブラ企業を創出・育成をすることができるプラットフォームを形成すべく、活動してまいります。

※ローカル・ゼブラ企業とは：

社会課題解決と経済成長の両立を目指すゼブラ企業は、社会課題を成長のエンジンに転換していく、地域経済の新しい担い手となり得る事業者です。ゼブラ企業とは、2017 年にアメリカで提唱された概念であり、時価総額を重視するユニコーン企業と対比させて、社会課題解決と経済成長の両立を目指す企業を、白黒模様、群れで行動するゼブラ（シマウマ）に例えたものです。

中小企業庁では、地域の社会課題解決の担い手となり、事業を通じて地域課題解決を図り、域内企業等と協業しながら、新たな価値創造や技術の活用等により、社会的インパクト（事業活動や投資によって生み出される社会的・環境的変化）を生み出しながら、収益を確保する企業を「ローカル・ゼブラ企業」と位置づけました。

（中小企業庁 HP「地域課題解決事業推進に向けた基本指針」策定ページより抜粋）

【参考】株式会社 Wasshoi Lab　会社概要

社　　名：株式会社 Wasshoi Lab

所 在 地：宮城県伊具郡丸森町町西２２－２

設　　立：2016 年 1 月 5 日

資本金等：5,000 万円

代 表 者：代表取締役　齊藤良太

事業内容：公共コンサルティング事業、マーケティング事業、観光事業、教室運営事業、他

■お問合せ先

お問合せ：株式会社 Wasshoi Lab　広報担当

メール： info@wasshoilab.jp

電話番号：022-211-6221　　担当：濱野・佐藤・齊藤

取材お申込み：広報担当宛てに E-mail いただければ幸いです。（所属・氏名）含めご記載ください。